

そっこう

行田総合病院広報誌

FREE

SUMMER 2026 社会医療法人社幸会 行田総合病院



STARTしています！

低侵襲治療センター

ロボット手術センター

結石治療センター／内視鏡センター／腹腔鏡手術センター／ヘルニアセンター

地域のために。あなたのために。

MINIMALLY INVASIVE TREATMENT CENTER

ていしんしゅうちりょうせんたー

低侵襲治療センターについて

2026年、この街に誕生した低侵襲治療センター。

ひたすらに患者さんと向き合う。プロフェッショナルとしての覚悟と信念を持ち、最前線の治療を突き進んでいく医師がここに集う。

低侵襲治療センター統括
副院長 泌尿器科 林 暁



近年の医療は病気を治すだけでなく、患者さんの身体的負担を軽減し、早期回復と社会復帰を実現する方向へと進んでいます。泌尿器科、消化器外科、消化器内科など、多くの分野で低侵襲治療技術は急速に発展し、地域医療においても高度かつ安全な医療提供体制が求められる時代となりました。

この度、当院が開設した『低侵襲治療センター』は、各診療科が有する専門性を横断的に連携させ、患者さんにとってより安全で負担の少ない治療を提供することを目的としています。『ロボット手術センター』『腹腔鏡手術センター』『内視鏡センター』『結石治療センター』『ヘルニアセンター』を標榜し、地域の皆様に安心して医療を受けていただける体制を構築してまいります。

利根医療圏においては、高齢化の進行とともに、救急医療、がん診療、高度急性期機能への期待が一層高まっています。当院は『低侵襲治療センター』を通じて地域完結型医療の中核を担い、地域の先生方との連携を深めながら、地域医療への貢献に邁進したいと考えています。

低侵襲治療センター



ロボット手術センター

手術支援ロボット『ダビンチ xi』を使用したロボット支援下手術を泌尿器科・消化器外科が行っています。P3～詳しく紹介しています。①②

腹腔鏡手術センター

胆嚢疾患はもちろん、胃、大腸・小腸、虫垂、肝臓、膵臓、脾臓、鼠径ヘルニアなど、あらゆる消化器系臓器を対象に腹腔鏡下手術を行っています。③

内視鏡センター

検査を積極的に行っており、速やかな早期診断につながっています。病気の発見から内視鏡による治療まで、院内ですムーズに行っています。④

結石治療センター

手術による結石破碎治療の場合、腎臓結石にはツリウムレーザー、尿管結石にはホルミウムレーザーと2つのレーザーを使い分け、効率よく治療を行っています。⑤

ヘルニアセンター

2026年より鼠径ヘルニアに対するロボット支援手術が保険診療で受けられるようになりました。小さな穴から手術を行うため、痛みが少なく、術後の回復も早まります。⑥

ROBOTIC SURGERY CENTER

高度な技術と 専門性を備えた ワンチームで挑む ロボット支援手術

医療技術は日進月歩で進化を遂げており、ロボット支援下で行われる「ダヴィンチ手術」はその代表例であり、標準治療として捉えられる時代になっています。この高度な手術の現場では、研鑽を積んだ執刀医を中心に、多職種によるチーム医療が実践されています。術野でサポートにあたる医師をはじめ、全身管理を担う

麻酔科医、円滑な進行と記録を支える手術室看護師、そして最先端機器の操作・管理を司る臨床工学技士。これら各分野のプロフェッショナルが緊密に連携しています。全員が絶え間なくコミュニケーションを図り、安全かつ確実に手術を遂行することで、患者さんへ最善の医療を提供し続けています。

麻酔科 部長 岡本知紀

麻酔科医の立場からすると、ロボット支援手術の麻酔については、特殊な体位（頭低位）や二酸化炭素による気腹が呼吸、循環、脳循環にも影響を与えます。それらの状況下で、全身状態を適切に保ち、安全を担保し、執刀医や助手が手術しやすい環境を提供しています。



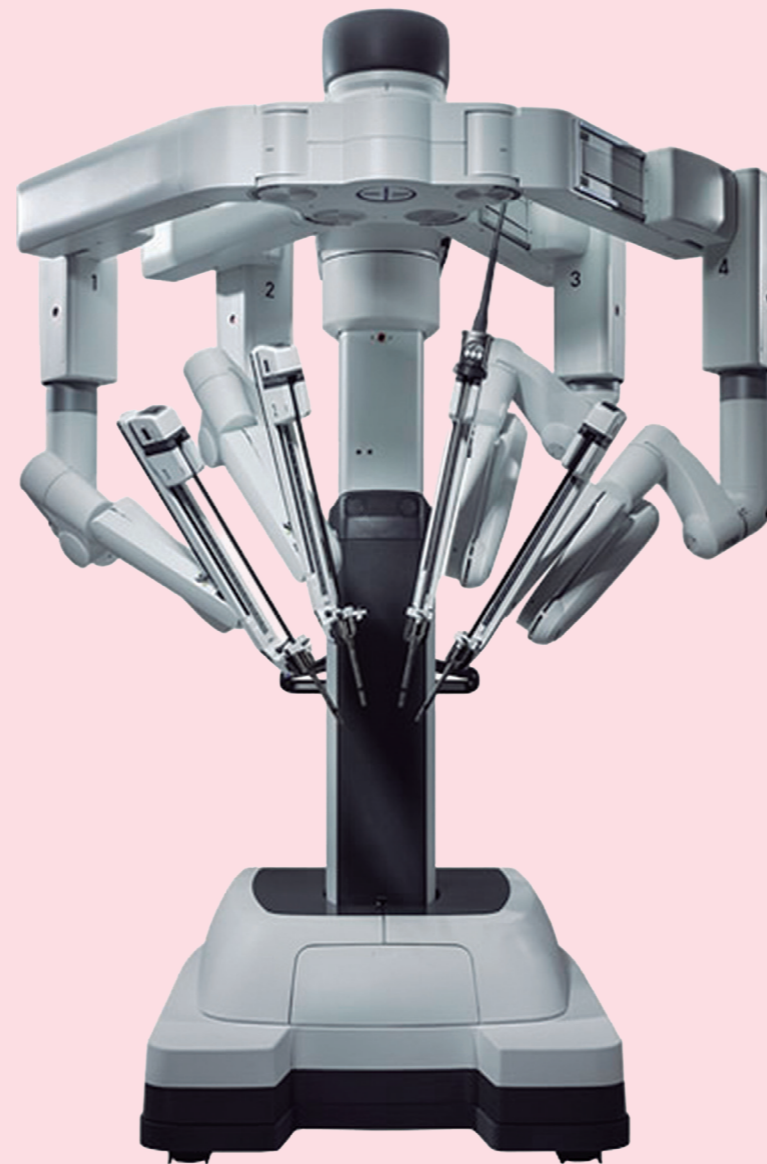
臨床工学技士 (ME)

私たち臨床工学技士は、手術ロボットの管理・メンテナンスを担当しています。安全で正確な手術を実現するために術式に合わせた装置の配置やネットワークの整備、術前の機器の動作確認から術中対応まで行い、ロボット支援手術チームの一員としての役割を担っています。



手術室看護師

患者さんの安心・安全を最優先しています。安楽な体位保持やロボットアームによる圧迫の予防、清潔野や器具の管理を徹底し、快適で安全な手術環境を提供します。私たち看護師も患者さんが低侵襲で最先端の手術を安心して受けていただけるように日々研鑽に努めています。



ロボット手術センター長 泌尿器科 部長 澤田陽平

手術の大原則は安全かつ確実に手術を完遂することです。これまで培った知識・技術を総動員し、ダヴィンチ手術を円滑に行い、手術を受けた患者さんから行田総合病院で手術を受けて良かったと感じていただけるように取り組んでいきたいと思っています。



結石治療センター長 泌尿器科 主任部長 高島 博

AI(人工知能)やAR(拡張現実)などを活用したロボット支援手術が主流になる日もそう遠くないかもしれません。しかしながら個体差の大きい人間の体を扱う以上、術者である我々が主導で決断し実行していく状況はまだまだ変わらないように思います。



ロボット手術副センター長 ヘルニアセンター長

消化器外科 部長 渋谷 紀介
大腸がん領域は、全件ロボット手術です。3Dモニターによる拡大視効果で細部までよく見え、手振れがなく、多関節を有しているため精緻な手術が可能です。特に直腸がん領域では、肛門温存や排尿機能・性功能障害の低減が期待されています。





Da Vinci

ロボット支援手術

低侵襲手術の革新。当院は2017年に導入。
標準治療となった現在において
症例数の多さは、医師の経験値に比例する。

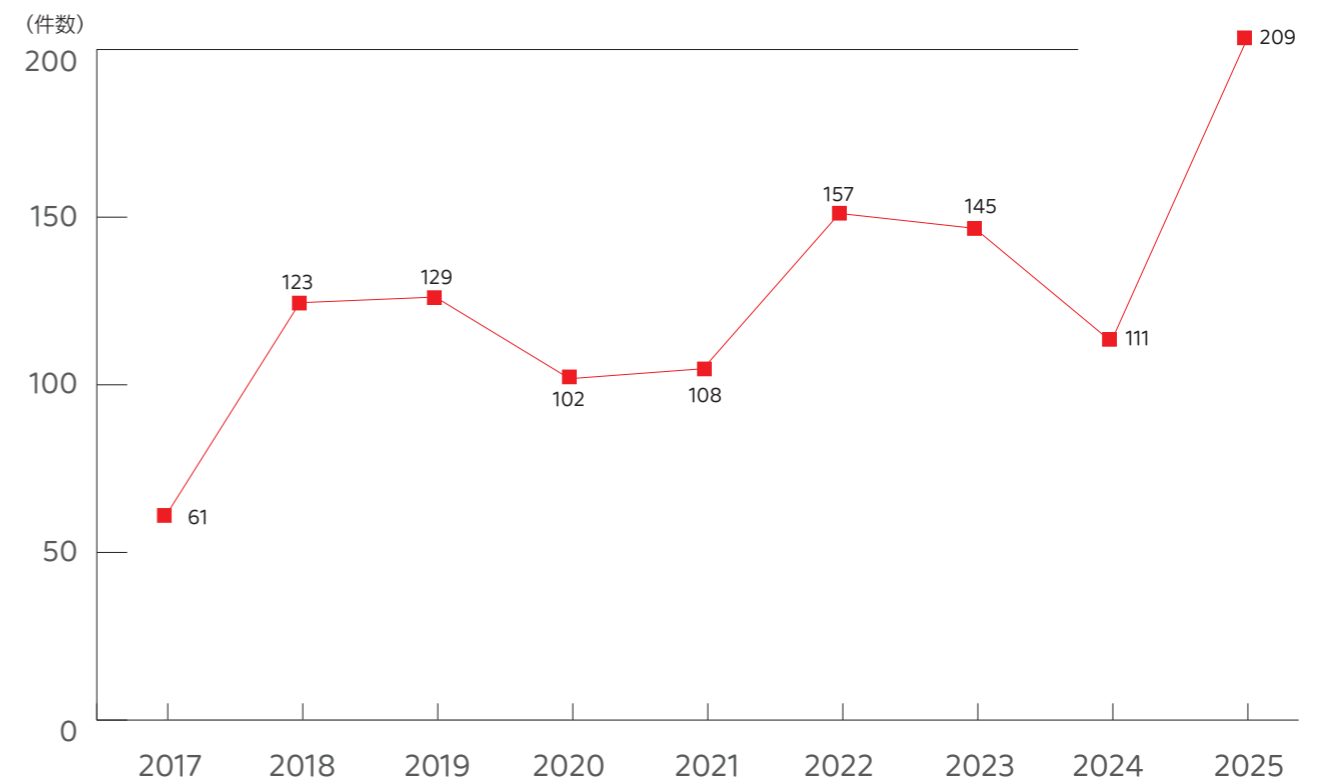
当院のDa Vinci導入は2017年4月と早く、ロボット支援手術の症例数も近隣では類を見ないほどです。
2022年9月にDa Vinci Xiへグレードアップし、2026年5月まで1500件の症例を超え、ロボット手術センターの開設へと至りました。
より多くの方にロボット支援手術を提供できるように努めています。住み慣れたこの地域でご家族に支えられながら安心して世界水準の医療を受けていただけます。いつでもご相談ください。

ロボット支援下手術対応疾患の実績【2025年5月～2026年4月】

| | | |
|------|-----|-----|
| 前立腺癌 | 腎癌 | 膀胱癌 |
| 97件 | 15件 | 7件 |
| 尿管癌 | 直腸癌 | 結腸癌 |
| 19件 | 37件 | 34件 |

泌尿器科・消化器外科ともに年間を通じて豊富な症例があり、常勤医の誰もが十分な経験を積めるよう配慮された症例分配を行っています。麻酔科医・手術室看護師・臨床工学技士・診療放射線技師・リハビリセラピストが診療科を横断して強固なワンチームを形成。低侵襲であるロボット支援下手術に徹底的にコミットできる環境がここにあります。

ロボット支援下手術総件数推移【2017年度～2025年度】



地域医療連携室からのお知らせ

かかりつけやいつものクリニックで紹介状を受け取ったら

WEBで予約ができます!!

1

QRコードを
読み込む⇒⇒⇒



2

やくばとのwebサイトで
質問項目に沿って
予約希望を入力



3

当院から予約確定日の
連絡を待つだけ

※ 3営業日以内に予約日をご連絡いたします。

